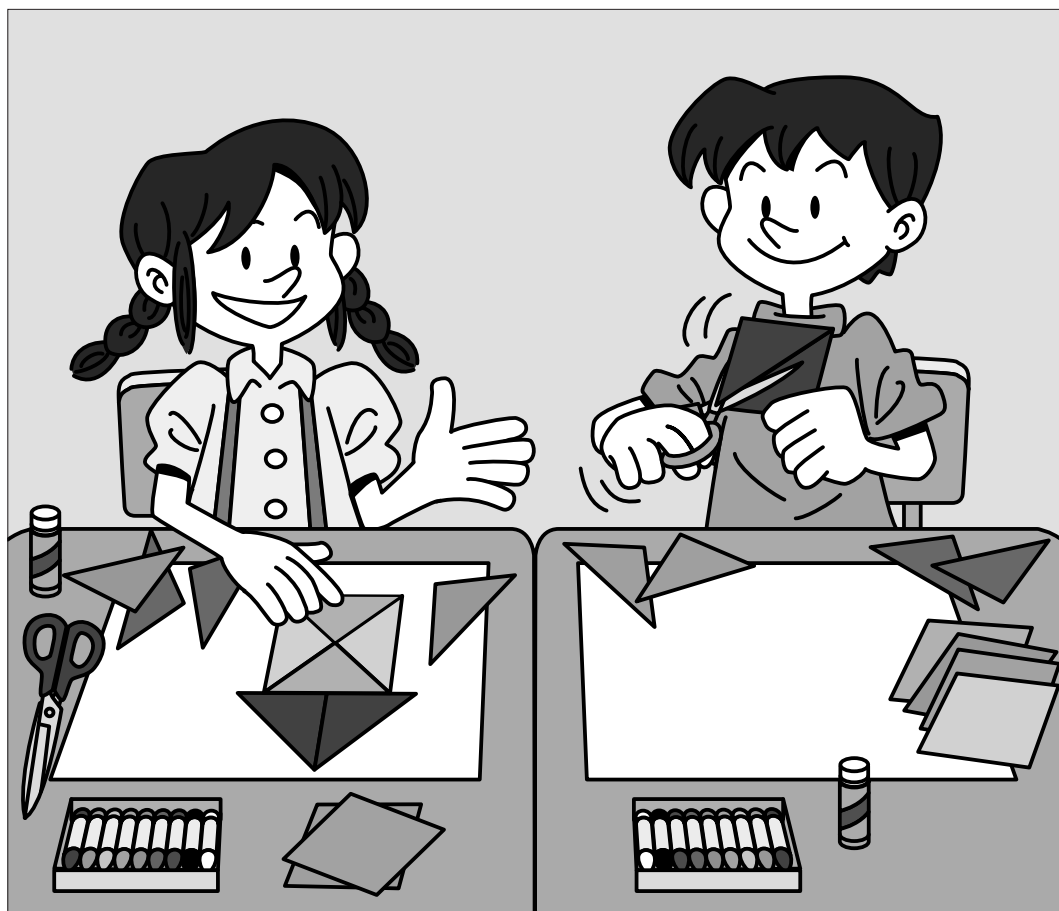


切って、貼って、できたよ！ こんな形



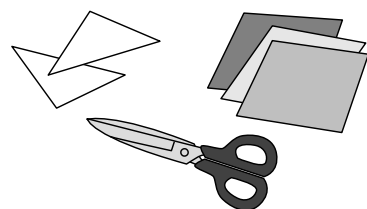
本時のねらい

折り紙で作った、直角二等辺三角形のピースを使って創作活動をする中で、形に対する興味・関心を持つ。意欲的に取り組むことによって、図形を構成する力を伸ばす。

準備物

教師：折り紙、はさみ

児童：折り紙、はさみ、のり、画用紙、クレヨン



単元導入時のポイント

本時は、折り紙を切って作った直角二等辺三角形のピースを使って、具体的な事物の概形を構成することにより、平面図形を構成する力を伸ばすことをねらいとしている。

児童に、教科書p.52の、色板を並べて作った形を見せ、「折り紙を切って色板の代わりとなるピースを作り、いろいろな形を作ってみよう」となげかけると、興味を示し、いろいろと並べて形を作ろうとするであろう。最初は思いつくままに並べると予想されるが、次第に「家を作ろう」と目的意識を持って作る児童や、できた形を見て「魚に似ている」などと、身の回りの物にあてはめて名前をつけたりする児童が出てくる。できあがるまでに、児童は試行錯誤を繰り返しているため、作品に対する思い入れも生まれ、意欲的に学習に取り組むことができる。児童には操作活動の時間を十分に与え、経験を豊富にすることによって、図形の構成力を身につけさせる。

ただ、児童にとっては、ピースを並べて思い描いた通りの形を構成する操作は、案外難しいものである。うまく構成できない場合は、ピースの向きに視点をあてて操作させるなど、具体的な構成方法を理解させるようにしたい。また、友達どうして協力させるなど、成就感を味わえるように配慮する。

「まわす」「ずらす」「裏返す」などの操作は、本時では直接扱わないが、児童はこのような操作を多く経験するものと思われる。

また、「何枚で作れたかな」と問いかけることで、枚数が同じでも違った形が作れることに気づかせる。同じ枚数でいろいろな形を作ることは、図形のセンスを磨くことにもつながる。

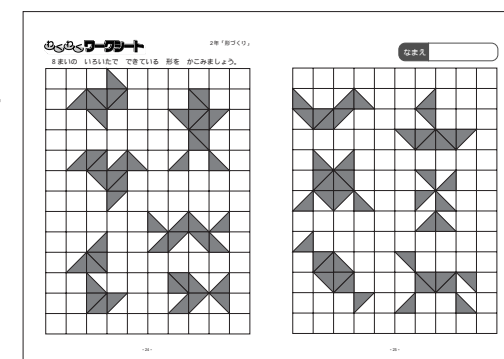
教科書活用の工夫

形づくりのイメージがわからない児童には、教科書p.52の色板を並べて作った形を見せると参考になるだろう。また、同じ枚数でできている形を探すこともできるので、いろいろな形が作れた児童には、「同じ枚数を使ってできる形を探してみよう」と呼びかけてもいいだろう。


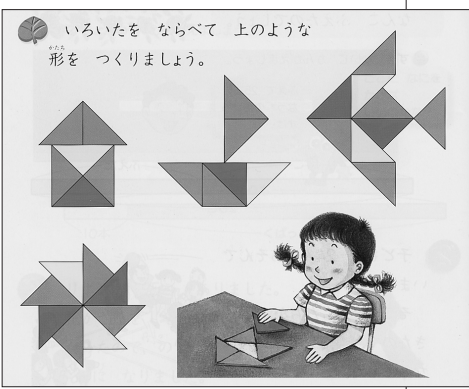




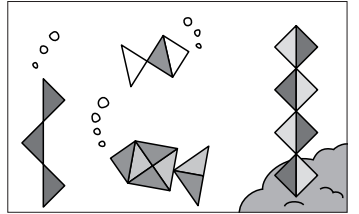

ワークシートの特長

作品が早くできた児童には、ワークシートを活用させる。色板を8枚使っていてできている形を見つけるものであるが、児童にはこの活動を通して、同じ枚数でもいろいろな形が作れるということをさらに実感させたい。



導入時の展開例

学習内容	児童の活動	指導上の留意点
<p>・問題場面の把握 教科書 p. 52</p>	<p>・教科書の写真を見て、何が写っているか話し合う。 家、水車、ヨット、人、熱帯魚等</p> <p>・教科書の、色板を並べて作っている形を見て、何を表しているか話し合う。 家、水車、ヨット、熱帯魚</p> <p>・女の子が作っているものは何かを考える。</p>	<p>・写真を見て自由に発表させ、具体的な事物を確かめさせる。</p> <p>・写真に写っているものばかりであることに気づかせる。</p> <p>・概形からイメージできるものを考えさせるようにする。</p>
<p>これはヨットかな？ 写真にもヨットがあったね。</p> 	<p>いろいろをならべて 上のような形をつくりましょう。</p>  <p>こっちは魚だね。</p> 	
<p>・学習のねらいをつかむ。</p>	<p>・「みんなにもできるかな」と問いかけ、意欲を高める。</p>	
<p>・構成を確認する</p>	<p>・教科書のそれぞれの形は、何枚の色板できているか話し合う。</p>	<p>・色板の枚数を数えさせ、その数を教科書に書き込ませる。</p>
<p>・折り紙で作ったピースを使って形を構成する</p>	<p>折り紙を切って作ったピースを色板の代わりに使って、教科書に載っている形と同じ形を作りましょう。</p> <p>・折り紙でピースを作る。</p> 	

	<p>・ピースを使って、それぞれの形を構成する。</p> <p>・枚数の少ない家やヨットから作ってみる。</p> <p>・同じ形になっているか確かめる。</p> <p>・水車、熱帯魚も同じように作り、確かめる。</p>	<p>・ピースが、重なったり、離れたり、ずれたりしてはいけないことを知らせる。</p> <p>・色は教科書と同じでなくてもよい事を知らせる。</p> <p>・うまく作れない児童には、教科書の色や向きに注目し、構成方法を理解させながら途中で一緒に作るなど支援を行う。</p>
<p>・ピースを使って、各自いろいろな形を構成する</p>	<p>・色板の枚数を決め、自由にいろいろな形を構成し、画用紙に貼る。 6枚(ヨット、家、魚) 7枚(ヨット、魚) 8枚(こいのぼり、ロケット、水車) 9枚(テント)</p> <p>・同じ枚数でも違う形が作れることに気づく。</p> <p>・作品に題名をつける。</p>	<p>・画用紙の余白に、クレヨンで絵を描き足すと、より楽しい作品に仕上がる。</p> <p>・児童の作品を見て、例えば、「6枚でヨットができたね。6枚で他に何かできるかな？」となげかけ、自由に操作させる。</p> <p>・できた形を発表させ、枚数が同じでも違った構成ができることに気づかせる。</p> <p>・操作時間は十分与え、経験を豊富にさせる。</p>
<p>・作品を発表する</p> <p>みんないろんな工夫をしているね。</p> 	<p>・お互いの作品を見て、何を表しているか言い合ったり、題名をあて合ったりする。</p> 	<p>・作品は、全体で認め合うようにする。</p> <p>・作品は、題名、使った枚数などを書き、教室に掲示するとよい。</p> <p>こんな形もできるんだね。思いつかなかった。</p> 
<p>・本時のまとめ</p>	<p>・折り紙で作ったピースを使って、いろいろな形が構成できることを確かめる。</p>	<p>・時間があれば、何を作るか考えて、枚数など自由に決めて作らせる。</p>

8まいの いろいろたで できている 形を かこみましょう。

